

九州ルーテル学院大学 「こころとそだちの臨床研究所」

「臨床実践の基礎講座」

この度、九州ルーテル学院大学「こころとそだちの臨床研究所」では、心理職を目指す大学院生の方、資格取得して間もない方、若手の心理職の方、他領域から心理支援に従事する方などを対象とした「臨床実践の基礎講座」（全6回）を開講いたします。

養成課程では十分に学びきれなかったこと、もう一度学び直してみたいこと、これから活かしていきたいことなどがあれば、ぜひ一緒に学んでみませんか。たくさんのご応募お待ちしております。

<開催概要>

会場：九州ルーテル学院大学(1401教室)とオンラインのハイブリッド

時間：19:00—20:30（開場18:30）

受講料：2000円（1講座） / 10000円（6講座一括申込）

*本学大学院生、研修相談員の方は無料

*大学院修了生は1000円（1講座）

申込：各回の申し込みサイトURLより（次ページ以降参照）

お問い合わせ：九州ルーテル学院大学人文学部心理臨床学科

(Tel: 096-343-2806 / Mail: tunematu@klc.ac.jp)



*各講座の詳細（内容・日にち）については裏面をご覧ください。

第1回「カウンセリングの基本原則」7/18（金）19:00-20:30

講師：古賀香代子（九州ルーテル学院大学）

内容：心理臨床の場で行われるカウンセリングは、心理職にとっては必須業務です。みなさんはこの資格を目指したときから、たくさんの時間をかけ理論や技術を学んでこられたと思います。実際の業務に入ると、だれもその場では教えてくれないし、助けてくれません。もちろん、スーパーバイズを受け振り返りをする機会はあるでしょう。

しかし、ケースはどれも同じではないし、対応の方法も一つ一つ違うものが求められます。心理職が常に研修を受け、スキルアップを目指す理由がここにあります。私自身、未だに学び続けています。その経験から、多くの心理臨床の実践を通して得たことを初学者に伝えたいと思います。本講座ではカウンセリングの基本をさらいながら、カウンセラーの有りようや時間のマネジメントなどを中心にお話をする予定です。

申込：<https://klcgradschoolext2025-1.peatix.com>

第2回「うつ病の認知行動療法入門」8/8（金）19:00-20:30

講師：有村達之（九州ルーテル学院大学）

内容：本講座ではうつ病に対する認知行動療法の概要について解説します。認知行動療法は医療領域で近年よく使われるようになった心理療法です。メンタルヘルスの問題は近年、社会問題となっています。代表的なものはうつ病で、はたらく人のメンタルヘルス問題としてよくみられます。うつ病の患者さん支援において、医療機関では薬物療法にくわえて認知行動療法を実施することも増えてきました。患者さんの社会復帰ではリワークプログラムが提供されていることが多いですが、その中で認知行動療法が実施されることも増えていきます。

認知行動療法といってもさまざまなものがあり、大きく分けて第1世代、第2世代、第3世代の3つがあります。うつ病の認知行動療法は主に第2世代が実施されていることが多いですが、第1世代、第3世代の認知行動療法も臨床的には重要ですので、解説します。うつ病にはさまざまなタイプがあり、支援が難しいタイプのうつ病もあります。慢性うつ病がそうですが、これは一般的なカウンセリングでは改善が難しいのですが、マインドフルネスに基づく介入法が有効です。ここではマインドフルネスを用いたうつ病への支援についてもお話しします。

申込：<https://klcgradschoolext2025-2.peatix.com>

第3回「子どもの発達アセスメントについて」9/5（金）19:00-20:30

講師：高野美雪（九州ルーテル学院大学）

内容：子どもの発達をアセスメントする際の実施検査について紹介していきます。今回は、就学前の事例を提示し、検査の結果と内容について見ていきます。さらに、所見の書き方や支援方法についても検討します。

申込：<https://klcgradschoolext2025-3.peatix.com>



第4回「心理検査を実施する前に」10/24（金）19:00-20:30

講師：石坂昌子（九州ルーテル学院大学）

内容：心理検査は、心理アセスメントのなかでも面接や観察とならぶ重要な手法のひとつです。この心理検査の知識やスキルは学びの機会がたくさんあるのですが、そもそも検査を実施する前に現場ではどのようなことが求められるのでしょうか。ディスカッションも交えながら、心理検査が依頼されてから必要となる事柄を丁寧に解説していきます。現場に出る前の方から、現場で動き方に困っている方、もう一度アセスメントや心理検査を学び直したい方まで、この機会に心理検査実施前の大事なポイントを一緒に学んでいきましょう。

申込：<https://klcgradschoolect2025-4.peatix.com>

第5回「発達障害の基本」11/7（金）19:00-20:30

講師：疋田忠寛（九州ルーテル学院大学）

内容：発達障害という名前は、公認心理師だけでなく、一般の人たちにもよく知られています。ただ、全ての人達が正しい理解をしているわけではなく、一部誤解されている部分もあるようです。この研修では、公認心理師の初学者を対象に、発達障害の基本的な理解を深めることを目的としています。公認心理師として、発達障害がある子どもや大人に関わることはほぼ間違いなくあるでしょう。そのために正しい知識を持って対応していくことは基本的なことですし、とても重要なことです。

研修の内容としては、まず発達障害とはどのようなものなのかについて、説明します。そして、自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、学習障害（LD）などの代表的な発達障害の定義や診断基準、特徴的な行動や認知の傾向について解説します。次に、発達障害が日常生活や対人関係、学業・職業生活に与える影響などを事例とともに紹介し、心理師としての視点を養います。また、多職種連携の必要性、心理職に求められる支援の役割についても触れていく予定です。

申込：<https://klcgradschoolect2025-5.peatix.com>

第6回「来談者中心療法」12/5（金）19:00-20:30

講師：恒松聡一郎（九州ルーテル学院大学）

内容：C.R.ロジャーズが嚆矢となった来談者中心療法は、＜カウンセリングの在り方とは何か＞についての一つの考えを表したものの、というのが本来の姿でした。すなわち、パッケージ化された技法ではなく、「カウンセリングに共通して大事なものはこれかもしれない」という本質論のようなものであり、治療構造の論などに近い性格を有します。しかしいつしか、「何をすればいいのかわからない」「オウム返し」「共感するだけ」という批判がなされるようになりました。これらは、来談者中心療法を“在り方（being）”ではなく“技法（doing）”として捉えていることによる誤解と言えます（小林, 1979; 村山, 1986; 中田, 2022; 佐治他, 2007）。

来談者中心療法では、＜クライアント・センタードという“在り方”を、自身がどのように実践していくか（技法的に展開させていくか）＞が心理士に問われることとなります。この講座では、クライアント中心療法とはどのようなものなのかについて、人間性心理学や臨床理論の生まれ方（國分, 1980）にも触れながら紹介していきます。

申込：<https://klcgradschoolect2025-6.peatix.com>